

# 台風に備えよう



～気象情報に注意して、事前の対策を～

今年の梅雨も、各地で大きな被害が相次ぎました。台風の本格的なシーズンも間近。毎年、大雨や暴風、高波など各地で災害が発生しています。気象情報に注意して、台風に備えましょう。

■問い合わせ先 生活安全課 ☎(36)5050

## 海岸近くは「高潮」にも注意を

台風時は、海岸付近では高潮に対する警戒も必要です。台風時に高潮が発生しやすい理由は、①台風の接近で気圧が下がるために、海面が持ち上げられる（吸い上げ効果）②陸上に向かって吹く風で、海水が海岸に吹き寄せられる（吹き寄せ効果）からです。



海岸付近では、潮位が高くなる満潮や大潮の時期と重なった場合は、特に注意が必要です。

## 台風の接近時や通過直後の作業は危険

台風接近時に、強風が吹き始めてから台風へ備えた対策をする人がいます。毎年のように屋根などから落ちてケガをするなどの事故が発生しています。強風時に屋根などに上らないで済むように、事前の準備をしておきましょう。

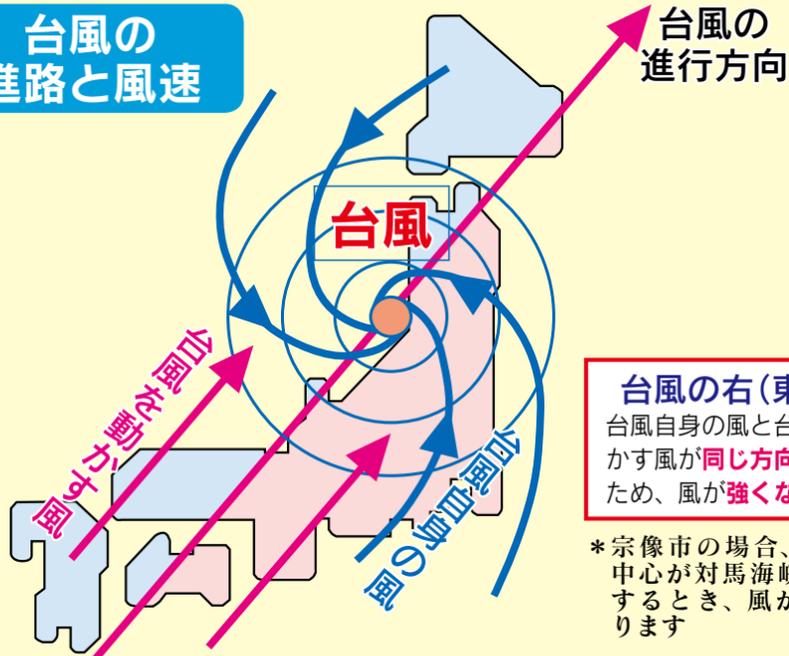
また、今まで吹いていた強風が急に弱まっても、約1～2時間後には再び吹き返しの強風が吹くことがあります。風が急に弱まったからといって、屋根に上ったり、不用意な外出は控えましょう。

## 気象情報で早めの対策を

台風は、熱帯地方に発生した低気圧で、中心付近の最大風速が17.2m以上、反時計回りの風が吹いているものをいいます。事前の予知が困難な地震とは違い、ある程度、接近時期や規模を予測することができます。

気象庁では、5日先までの台風の進路を予報しています。台風の被害は、正確な気象情報を収集することで、軽減することができます。福岡管区気象台が発表する注意報や警報などの情報に注意し、事前の対策を取りましょう。

## 台風の進路と風速



**台風の右(東)側**  
台風自身の風と台風を動かす風が**同じ方向**に吹くため、風が**強くなります**

\*宗像市の場合、台風の中心が対馬海峡を通過するとき、風が強くなります

## 台風時の避難の心得

- テレビやラジオ、インターネットなどの気象情報に注意しながら、早めの避難を心がけましょう
- 避難する時は、火の始末や戸締りを確実に。電気製品は電源を切り、ガスは元栓を閉めましょう
- 避難勧告・指示は、広報車などで実施します。また、市ホームページや市緊急情報伝達システム（登録用アドレス=subscribe@bosai.city.munakata.fukuoka.jp）、エリアメール、i F A X（要登録）でも情報を提供します
- 避難する時の持ち物は最小限に。背中に背負うなど、両手は自由に使えるようにしましょう

## 避難先

- 自らの判断で自主的に避難（自主避難）する場合は、自治公民館などに避難を
- 市の指定避難所は災害状況や規模に応じて、市災害対策本部が指定避難所の中から選定して開設（指定避難所は、広報紙6月15日号に掲載）
- 市では自主避難に対応するため、台風の進路の状況によっては指定避難所を開設することもあります。事前に生活安全課☎(36)5050へ確認を

表1 台風情報で用いる用語の解説

予報円	台風の中心が到達すると予想される範囲(台風の中心が予報円に入る確率が70%)
暴風域	台風の周辺で、平均風速25m/秒以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性がある領域
強風域	台風の周辺で、平均風速15m/秒以上の風が吹いているか、地形の影響などがない場合に、吹く可能性がある領域
暴風警戒域	台風の中心が予報円内に入ったときに、暴風域に入る恐れがある領域

表2 風の強さと被害想定

平均風速/毎秒	被害想定
10m以上～15m未満 (やや強い風)	風に向かって歩きにくい。看板やトタン板が飛ぶ
15m以上～20m未満 (強い風)	風に向かって歩くことが困難
20m以上～25m未満 (非常に強い風)	しっかりと体を確保しないと転倒する。車の運転を続けるのは危険な状態となる
25m以上～30m未満 (非常に強い風)	立ってられない。樹木が倒れ、ブロック塀が壊れることがある
30m以上～ (猛烈な風)	屋根が飛ばされたり、木造住宅の倒壊の恐れがある

表3 台風の大きさと階級分け

階級	風速15m/秒以上の半径
大型(大きい)	500km以上～800km未満
超大型(非常に大きい)	800km以上

表4 台風の強さと階級分け

階級	最大風速
強い	33m/秒以上～44m/秒未満
非常に強い	44m/秒以上～54m/秒未満
猛烈な	54m/秒以上